

平成30年度おかやま協働のまちづくり賞応募募用紙

平成30年10月18日

岡山市長 様

応募者代表 団体名 特定非営利活動法人
岡山ニャンとかし隊
氏名 代表理事 廣畑佐知子

平成30年度「おかやま協働のまちづくり賞」に応募します。

取組の名称	～「ノラ猫」ではなく「地域猫」へ～猫と人間が共生する地域をつくりたい！！	
取組の概要	<p>1人で100匹を救うのではなく、目の前の1匹を救える人材を100人育てることを目標にボランティア育成に取り組みます。</p> <p>様々な広報・啓発活動により、所有者のいない猫対策を行う地域を増やし、活動を継続するための支援基盤の整備を通じて、域内で所有者のいない猫を少なくします。さらに、岡山市だけにとどまらず、岡山県の行政担当者ともネットワークを上げ対策支援の拡大を目指します。</p> <p>なお、地域に所有者のいない猫が少なくなることで殺処分される猫が減少することが期待できるほか、対策を通じて動物愛護の普及と実践の機会を提供することで人と猫の調和のとれたまちづくりへつなげていきます。</p>	
協働団体	<p>岡山市北区5町内会</p> <p>岡山市保健所衛生課</p>	
取組の実施期間	始期：平成27年4月～	<input type="checkbox"/> 平成 年 月 終了 <input checked="" type="checkbox"/> 継続予定 <input type="checkbox"/> 平成 年 月頃終了予定 <small>※該当するものに☑し時期の予定し必要事項記入してください。</small>

●次の書類等を添付してください。

①〔様式1〕協働による社会課題解決の取組の内容

②〔様式2〕取組実施団体概要書

③写真等取組イメージ画像の電子データ（1枚）

インターネット投票を行う際にエントリー一覧に使用します。エントリー一覧は、応募順（事務局受付順）に掲載します。

④取組内容や成果、協働の役割などをわかりやすくまとめたシート（A4またはA3）1枚
シートをもとに、事務局でポスターを作成し、展示等を行います（シートの作成が技術的に困難な場合は早めにご相談ください。シートづくりをお手伝いします。）

⑤その他取組の説明資料：A4で2ページ以内で添付できます。

※提出していただいた書類等はすべて審査の対象となり、〔様式2〕以外は原則、ホームペー

ジ等で公開します。

〔様式1〕 協働による社会課題解決の取組の内容

取組の名称	地域猫活動普及・啓発事業
平成30年度募集テーマ	やりがいと豊かな暮らし SDGs目標8：働きがいも経済成長も SDGs目標11：住み続けられるまちづくりを
テーマとの関連	◎テーマと合致する貴団体の取組についてお書きください。 私たちが展開している所有者のいない猫対策は所有者のいない猫による生活被害の減少を目的としたものではなく、人と猫が「いつまでも共生できるまちづくり」を目的にしています。行政、地域住民、学生ボランティアなどの多様な主体を巻き込み、猫の嫌いな人にも活動の趣旨をご理解いただきながら、命を大切に、優しさのあふれる人と猫の調和のとれた岡山市まちづくりを実現することを目指しています。
目的・解決をはかりたい課題の状況・目標	◎取組の目的、解決をはかりたい社会課題の状況把握・ニーズ把握、解決後の姿（目標としている状況）などについてお書きください。 所有者のいない猫（いわゆるノラ猫）によるフン尿被害、猫が好きな人と嫌いな人とのトラブルなどが全国的な社会課題として認知され始めています。解決策は「無制限な殺処分」ではなく、「不幸な猫がいなくなること」です。私たちは岡山市内で生息する所有者のいない猫を地域住民が主体となって、適切に管理し、猫の数と被害を減らしながら、人と猫双方が住み良い地域を実現することを目的として「所有者のいない猫対策」の普及と実践に取り組んでいます。 平成29年度には岡山市との協働事業として市内全域の町内会を対象とした調査を実施しており、所有者のいない猫対策の普及とあわせて、所有者のいない猫が多く、困っている地域が303地域あり、所有者のいない猫対策に取り組んでみたい地域が65地域あることを把握することができました。一方、岡山市登録団体として47団体で所有者のいない猫対策が実施されていますが、まだまだ対策への認知が低く、対策をはじめの方法や準備についての情報提供が必要であることがわかりました。 これらの結果・状況をふまえて平成30年度は5つのモデル地域を選定して、住民説明会を展開しています。今後は、5つのモデル地域内で地域猫活動が開始されることを目標として、個別の伴走支援やボランティアの養成に取り組んでいく予定です。

	団体名	この取組で果たしている役割
協働団体とその役割	岡山市北区5町内会	協力会員
	岡山市保健所衛生課	岡山市市民協働推進モデル事業協働団体
取組の工夫	<p>◎地域資源や人的資源の活用など工夫した点をお書きください。 特定非営利活動法人立ち上げ母体として3町内会合同で社員をつのり設立しました。 設立当初は3町内会内の所有者のいない猫の全部に対して不妊化手術を施すのを目標にし、猫にご飯をあげている人からや猫の目撃情報を共有しました。 面で広げるために3町内会に隣接する2町内会と協力体制になりました。 点在する地域を募るために、月2回定期的に相談会を開催し、フェイスブックページなどのSNSで情報拡散しました。 資金については、地域から寄付を募るとともに、「みんなでつくる財団おかやま」の割り勘事業に挑戦し、初期資金と資金集めや団体運営のノウハウを学びました。</p>	
取組の特徴	<p>◎取組の特徴やアピールポイントをお書きください。 平成29年度には岡山市市民協働推進ニーズ調査事業のほか、公益財団法人トヨタ財団の助成を受けて調査事業を実施しており、その際に専門家から調査事業の設計に関するノウハウを学んでいます。 また、平成30年度も同じくトヨタ財団の助成を受けて、岡山市内の「飼い猫」実態調査を実施しており、「飼い猫」を「捨て猫」にさせないための支援・サービス構築を検討しているところです。 今後は猫の飼い主を取り巻く環境に対するアプローチも検討しており、「飼い主のいない猫/所有者のいない猫対策」「飼い猫/飼い主の高齢化」「新たに共有される猫/猫の飼い方啓発」の3つのカテゴリー・主要因に対して連携や支援を展開していく予定です。</p>	
成果・効果	<p>◎取組を通じて得られた成果や、解決した社会課題の状況、また関連した地域への効果や変化などをお書きください。 既存の猫の不妊化手術を進めるに当たり、町内会を越えた地域同士の情報交換が必要になるため、必然的にコミュニケーションが活性化しました。地域内の全所有者のいない猫の不妊化手術を終えた後の事後管理が一人に偏ることなく、それぞれが自立した活動へと変化し、地域外に広めるときの実績表や経験を集めたハウツー冊子の作成に役立ちました。さらに、流入猫対策として捨て猫マップが作成され、複数の町内会にて情報を共有した結果、防犯と捨て猫防止策として3町内会合同で防犯カメラが設置され、活動者の負担を軽減できました。 点在する地域を結ぶ事業においても、これらの実際が対策を検討している地域の共感を得、対策に対する理解への助けとなっていると感じています。 対策を実施している5町内会では、不妊・去勢手術をした所有者のいない猫103匹は、現在55匹に減少しています。</p>	
今後の活動展開など	<p>◎今後の成果の普及や活動展開などについてお書きください。 30年度に募集して養成講座を受講したボランティアを31年度のモデル事業、所有者のいない猫対策現場で活用し現場経験値を獲得し、活用現場での効果をアンケート調査などで検証し、32年度に地域猫活動ボランティア制度の一般施策化を目指します。 面で広げる、点で結ぶ所有者のいない猫対策の支援事業を通じて各地域のボランティアが育成され、交流するので、他地域の特色ある取り組みが共有でき、ボランティアのスキルアップに役立ちます。 高齢化で担い手不足に悩む地域も対策を進めることができるため、地域事情による対策への障壁をとりのぞくことが期待されます。</p>	